



Nagomi no SATO

社会福祉法人なごみの郷

就労支援センターつばさ

グループホームなごみ

ホームヘルプステーションなごみ

相談支援センターなごみ

地域活動センターくろゆり

能美地域活動センターはまかぜ

能美地域活動センターはまかぜ山口分場

相談支援センターはまかぜ

令和2年度事業実績及び令和3年度に向けて

〒923-0851 小松市北浅井町り 123 番地

TEL (0761) 23-7232

FAX (0761) 23-7284

E-mail : shafuku@nagomi-no-sato.or.jp

<https://www.nagomi-no-sato.com>

なごみの郷の理念

なごみの郷は、「地域で普通の生活をしつつ、未来に向かって希望の道歩むこと」を大きな目標とします。

その目標を達成するために、なごみの郷はその名の由来通り「人の輪と心が和む場」を大切に、「一人一人が夢と希望を持って生きること」を目指して、医療・行政機関等との緊密な連携のもと、「絶えず創意工夫を積み重ね、最善を尽くすこと」を信条とします。

基本方針

- 1 人の輪、こころの和を大切にサービスに努めます。
- 2 一人一人の権利と尊厳を守り、個人の自律及び自立を尊重することに努めます。
- 3 利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となって推し進めます。

なごみの郷主要施設



なごみの郷本館



グループホームしらさぎ



地域活動センターくろゆり



能美地域活動センターはまかぜ



能美地域活動センターはまかぜ
山口分場

新型コロナ禍の中で



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、現在も変異して世界中で猛威を振るっています。なごみの郷でも、発生当初から施設入館や利用時にルールを設けて皆様にご協力も頂きながら、あらゆる感染予防対策を講じて休むことなく福祉サービス事業を継続してまいりました。その間、国、県、市からのマスク等の感染予防用物資の配布や感染症対策に係る物資の購入助成、それに、ボランティアグループの「メンボラ ToMo の会」や県内企業等の地域からの支援物資等も頂いております。お陰様で現時点では皆様のご理解やご支援により法人関係者に COVID-19 の陽性者が出ていない事に深謝申し上げる次第です。

しかし、残念ながら法人の恒例になっている「春の日の食談会」や「なごみ祭」等の大きなイベントはもちろんの事、日々のボランティアグループ等の地域の方々とのふれあい活動も中止せざるを得ませんでした。早い終息を祈るばかりです。

その様なコロナ禍の状況下での今日、今こそ人の尊厳を保持しつつ、「支える側」「支えられる側」の関係を超越して、人と人、社会とのつながりを大切に、一人ひとりが主人公となって生きがいや役割を持ち、お互いに助け合って暮らしていける地域社会を創っていく時と考えています。その一つとして当法人も昨年、結成された「のみ社会福祉法人連絡会(能美市内の9法人)」の「ふれあい弁当」事業やフードドライブへの協力、法人間連携による研修企画等、地域貢献に協力しています。

併せて、法人創立22年を迎えるにあたり【地域が求める将来事業環境の整備】【法人を託していける人材確保】【職員の個々の意識と資質向上】を図っていくためにはこれまでの実践を検証し、学びの中から『なごみの郷』の地域共生社会づくりの共有化財産を創っていかなくてはなりません。今年度は、その調査・研究事業として20年が経った実践記録を冊子とし発刊も予定しています。

なごみの郷の基本方針に、「利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となって推し進めます」と掲げています。これまで同様、地域の皆様をはじめ行政や関係機関の方々と共に地域福祉の向上を目指してまいりますのでより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

令和3年9月

社会福祉法人なごみの郷

理事長 荒田 稔

目次

I 法人の概要	1
1 法人の沿革	1
2 施設の規模	2
3 組織・機構	3
4 関係団体の動き	3
5 職員体制	5
6 令和2年度 特記事項	6
II 支援部	7
《就労継続支援B型事業》就労支援センターつばさ	7
1 事業の概要	7
2 事業実績	7
3 行事等の年間活動	9
4 就労支援	9
5 作業の概要	10
《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》能美地域活動センターはまかぜ	15
1 事業の概要	15
2 事業実績	16
《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》能美地域活動センターはまかぜ山口分場	21
1 事業の概要	21
2 事業実績	22
《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》グループホームなごみ・しらさぎ	26
1 事業の概要	26
2 年代別利用者内訳	27
3 利用状況	27
4 主な日中の生活の場	27
5 利用者支援等	27
6 令和2年度の動向	30
《共同生活援助事業（外部サービス利用型）》グループホーム弥生荘	31
1 事業の概要	31
2 年代別利用者内訳	31
3 利用者状況	31
4 利用者支援等	31
5 令和2年度の動向	32
《相談支援事業》相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ	33
1 事業の概要	33
2 事業の実施期間	33
3 事業内容	33

《生活介護事業、地域活動支援事業》地域活動センターくろゆり.....	37
1 事業の概要	37
2 事業利用状況.....	38
3 事業活動内容.....	39
《地域交流推進事業》.....	41
第21回なごみ祭り・第22回春の日の食談会中止.....	42
III 令和2年度の決算状況	43
1 資金収支計算書.....	43
2 事業活動計算書.....	44
3 貸借対照表	45
IV その他	46
1 法人内研修	46
2 研修・各種団体会議への出席.....	47
3 関連団体への参加.....	48
4 令和2年度公立小松大学実習概要.....	49
5 地域貢献の一環.....	49
6 なごみの郷苦情解決第三者委員.....	50

I 法人の概要

1 法人の沿革

年	月	摘 要
平成 10	12	「社会福祉法人なごみの郷」設立発起人会発足
11	8	社会福祉法人なごみの郷設立 初代理事長 廣川 俊雄氏 就任
12	4	なごみの郷本館新築 精神障害者社会復帰施設「地域生活支援センターなごみ」 「福祉ホームなごみ」「通所授産施設つばさ」開設
13	3	二代目理事長 西出 外次 氏 就任
14	4	精神障害者「グループホーム弥生荘」開設
	10	ホームヘルプサービス事業開始
15	4	なごみの郷敷地内にしらさぎ館新築 精神障害者「グループホームしらさぎ」「地域交流センターしらさぎ」 小規模通所授産施設「フレンズくろゆり」開設 レスパイトケア事業・精神障害者地域生活サポート事業開始
	8	三代目理事長 木村 正行 氏 就任
18	10	「福祉ホームなごみ」より障害福祉サービス事業「ケアホームなごみ」 に事業変更・経過的地域生活支援センター事業（小松市委託）開始 「地域生活支援センターなごみ」より 相談支援事業（小松市委託）に事業変更
19	3	相談支援事業（小松市委託）廃止
	4	「地域活動支援センターくろゆり」「相談支援センターなごみ」 「ホームヘルプステーションなごみ」開設 「通所授産施設つばさ」より「就労支援センターつばさ」に事業変更
	5	「グループホームしらさぎ」より「グループホームケアホームしらさぎ」 に事業変更
20	11	「地域活動支援センターくろゆり」より「地域活動センターくろゆり」 に事業変更・「相談支援センターなごみ」増築
	12	「地域活動センターくろゆり」改築
21	8	四代目理事長 水腰 久美子 氏 就任
	10	法人設立 10 周年記念式典開催
22	4	「グループホームケアホームしらさぎ」より「ケアホームしらさぎ」 に事業変更
	8	五代目理事長 小杉 修 氏 就任
24	3	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労支援センターつばさの サテライト事業所として開設
	8	六代目理事長 荒田 稔 就任

25	4	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労継続支援（B型）事業と地域活動センターとして開業
	8	「相談支援センターはまかぜ」を能美地域活動センターはまかぜ内に開設
26	4	「ケアホームなごみ」「ケアホームしらさぎ」を「グループホームなごみ」「グループホームしらさぎ」に事業変更
30	4	「地域活動センターくろゆり」自立(生活)訓練事業を休止
	11	「ホームヘルプステーションなごみ」居宅介護事業を休止
令和 1	8	「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を能美地域活動センターはまかぜのサテライト事業所として開設 相談事業所「相談支援センターはまかぜ」を山口分場内に移転
2	4	「能美地域活動センターはまかぜ山口分場」を就労継続支援（B型）事業所と地域活動センターとして開業
	8	「グループホーム弥生荘」共同生活援助事業を廃止
	11	地域活動センターくろゆりの自立（生活）訓練事業を廃止

2 施設の規模

社会福祉法人なごみの郷 ・敷地面積 ・建物3棟総床面積（構造・面積 木造一部2階建て） グループホームなごみ 306.19㎡ 就労支援センターつばさ 348.85㎡ 相談支援センターなごみ・ホームヘルプステーションなごみ他 160.83㎡ グループホームしらさぎ 89.43㎡ 地域交流センターしらさぎ 104.34㎡ ポンせん加工室 24.00㎡	〒923-0851 小松市北浅井町り 123 番地
地域活動センターくろゆり ・敷地面積（甲 21 番地 駐車場含む） ・建物床面積（構造・面積 木造 2 階建て）	〒923-0863 小松市不動島町甲 22 番地
能美地域活動センターはまかぜ ・敷地面積 ・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て） 倉庫	〒929-0105 能美市中ノ江町と 104-1 番地
能美地域活動センターはまかぜ山口分場 ・敷地面積 ・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート 1 階建て） 機械室他	〒929-0126 能美市山口町ホ 17-1 番地

3 組織・機構

(1) 令和2年度法人の役員等名簿（令和3年4月1日現在）

役員

理事長 荒田 稔	理事 北岡 和代	理事 石山 雄一
理事 三上 紀美恵	理事 村中 豊	理事 高田 茂
監事 千田 純一	監事 川畑 真智子	—

以上理事6人監事2人

(2) 顧問

水腰 久美子	木崎 馨山	—
--------	-------	---

以上2人

(3) 評議員選任解任委員

監事委員 川畑 真智子	外部委員 細川 勝正	外部委員 新谷千代子
外部委員 高見 京子	事務局委員 瀬戸俊文	—

以上5人

(4) 評議員

中島 捷純	岡田 啓	本多 清人	岡田 和昌
新川 葉子	中島 陽子	西野 純枝	—

以上7人

(5) 苦情受付

苦情解決第三者委員	北岡 和代	井村 千里
-----------	-------	-------

苦情解決責任者	村中 豊	苦情受付担当者	高田 茂
---------	------	---------	------

4 関係団体の動き

年度	摘 要
昭和 48	小松保健所（現南加賀保健福祉センター）管内精神障害者家族会「くろゆり会」発足
63	小松市不動島町に小規模作業所「くろゆり作業所」開設
平成 5	ボランティアグループ「くろゆり作業所を支える会」発足
6	小松保健所のメンタルヘルスボランティア講座始まる。 ボランティアグループ「メンタルフレンズつばさ会」発足 小松市末広町に第2作業所「ワークハウスつばさ」開設
7	小松能美こころの街づくり推進協議会開催 ボランティアグループ「みのり会」発足

8	「ワークハウスつばさ」小松市小馬出町に移転 ボランティアグループ「こだま会」発足
9	「小松能美精神障害者社会復帰施設法人設立準備の会」発足
10	ボランティアグループ「ハーモニー」発足
11	ボランティアグループ「ののはな」発足
12	小松能美メンタルヘルスボランティア連絡協議会発足
14	ボランティアグループ「かよう会」発足
15	ボランティアグループ「のぞみの会」発足
16	メンタルヘルスボランティア8グループを統一して、「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」として発足
令和 2	「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」を 「メンボラ ToMo の会」に改名する。

5 職員体制

令和3年4月1日現在

所属及び職名		氏名	備考	福祉関係有資格	
理事長		荒田 稔		精神保健福祉士	
所長(施設長)		村中 豊		社会福祉施設長	
部長(管理者)		高田 茂		精神保健福祉士・社会福祉士	
次長(管理者)		瀬戸 俊文		精神保健福祉士・社会福祉士	
次長(管理者)		堂前 美春		精神保健福祉士	
次長(管理者)		中村 有紀		精神保健福祉士・保育士	
法人本部(総務部)		鈴木 栄子			
		武田 春江	兼 GHなごみ・しらすぎ		
就労支援センターつばさ	管理者	中村 有紀		精神保健福祉士・保育士	
	就労継続支援B型	サービス管理責任者	金谷 葉月	精神保健福祉士・社会福祉士	
		生活支援員	北島 千裕	社会福祉士	
		目標工賃達成指導員	西東 健太		
	職業指導員	山田 紗貴		管理栄養士	
		酒井 真由美	兼 GHなごみ・しらすぎ		
		向井 進			
奥村 恭子					
なごみ・しらすぎグループホーム	管理者兼サービス管理責任者	瀬戸 俊文		精神保健福祉士・社会福祉士	
	共同生活援助	番 千恵子		栄養士	
		生活支援員	酒井真由美	兼 就労支援センターつばさ	
			中山 裕子		
	世話人	富樫 尚子		介護福祉士	
		村中 豊			
		武田 春江	兼 法人本部		
	世話人(遅番専属)	打越 賢一			
		近藤 悠	派遣	17:00~21:30 交代勤務(日曜~土曜)	
			小松市シルバー人材センター		
以下の3事業所 管理者		高田 茂		精神保健福祉士・社会福祉士	
くろゆり地域活動センター	生活介護	サービス管理責任者	松本 里絵	精神保健福祉士	
		生活支援員	三宅 奈津子		
			大杉 美佐子		
		看護師	吉田 裕美子	看護師	
	地域活動支援センター		生活介護事業と兼務		
はまかぜ地域活動センター	就労継続B型	サービス管理責任者	山口 充子	介護福祉士・保育士	
		生活支援員	小島 優衣	社会福祉士	
		目標工賃達成指導員	南出 真里江	介護福祉士	
		職業指導員	杉森 早希		
			橋本 庄哉		
	地域活動支援センター		就労継続B型事業と兼務		
はまかぜ山口分場	就労継続B型	サービス管理責任者	江端 安代	介護福祉士	
		生活支援員	海老原 綾	社会福祉士	
		目標工賃達成指導員	前出 真	精神保健福祉士・社会福祉士	
		職業指導員	前田 信夫		
				—	
以下の2相談事業所 管理者		堂前 美春		精神保健福祉士	
相談支援センターなごみ	相談支援専門員	宇野 結貴		精神保健福祉士・社会福祉士・介護支援専門員	
		中西 雅恵		主任介護支援専門員・介護福祉士	
相談支援センターはまかぜ	主任相談支援専門員	堂前 美春	兼 管理者	精神保健福祉士	
	相談支援専門員	土山 信英		社会福祉士・介護支援専門員	
顧問医		岡本 進	岡本病院(小松市小馬出町)		

常勤役員 1 人 職員 36 人 [常勤 20 人 (男 3 人女 17 人) 非常勤 16 人 (男 7 人女 9 人)]
 他 派遣労働者 シルバー人材センター (世話人・清掃)
 業務委託先 NPO 法人えんがわ 他 (送迎車両担当、夜間世話人)

6 令和 2 年度 特記事項

固定資産の取得

・車 両		
4 月	普通貨物 (トヨタハイエース) 山口分場車両増車 社会福祉法人清水基金より 助成金 2,000,000 円	3,080,000 円
・機械器具		
5 月	GHなごみ居室エアコン	154,000 円
9 月	相談室給換気機能 エアコン	242,000 円
・構築物		
8 月	山口分場 駐輪場整備	550,000 円
10 月	はまかぜ //	297,000 円
・その他		
9 月	令和 2 年度新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業 障害福祉慰労金事業 (慰労金対象者 4 5 人) 感染症対策を徹底した上での障害福祉サービス提供支援事業 給換気機能付エアコン、空気清浄機、アクリル板、抗菌カーテン 他	2,250,000 円 1,630,000 円
2 月	中日新聞社会事業団北陸支部 (年末助け合い募金) 就労支援センターつばさへ寄付金	100,000 円
		以上



普通貨物 (トヨタハイエース)



はまかぜ駐輪場



山口分場駐輪場

Ⅱ 支援部
《就労継続支援B型事業》
就労支援センターつばさ

1 事業の概要

就労支援センターつばさは令和2年4月より就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型事業所（定員20人）として新たなスタートを切った。培った就労支援スキルと各関係機関との繋がりのもと、一般就労を目指す方への支援を継続的に行った。今後も心身面の変化における知識の習得と関係機関との密な連携のもと、ストレングスを意識した作業提供・就労支援に努める。

- (サービス内容) 心身面で一般就労が難しい方や一般就労の経験はあるが体力や年齢から企業等に雇用されるのが困難な方、一定年齢に達している方に対し、通所により就労や生産活動の機会を提供する。
また、一般就労に必要な知識、能力が高まった利用者を次のステップに向けて支援する。
- (定員) 20人
- (利用料) 590円/日（個人の所得によって上限がある）
- (サービス提供日時) 毎週月～金曜日（午前8時30分～午後5時まで）
販売会、行事等により土・日・祝日有り
- (利用期間) なし
- (作業内容) 菓子製造、喫茶、厨房、委託事業、エコステーション管理
- (その他) 昼食・送迎サービス

2 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続（B型）（定員20人）	30	30	30	30	30	30

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度平均	前年度
30	32	32	33	33	31	371	30.9	25.5

②市町村登録者数

単位：人

市町村名	小松市	能美市	加賀市	川北町	その他	計
延人数	312	24	12	11	12	371
構成比率	84%	7%	3%	3%	3%	100%

③年代別登録者数（令和3年3月31日現在）

単位：人

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	2	4	1	3	3	3	16
女性	0	3	7	2	2	1	15
計	2	7	8	5	5	4	31

（2）延人数・利用率の推移

①就労継続支援（B型）事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延人数(人)	326	288	406	412	355	378
開所日数(日)	22	21	23	24	21	22
稼働率	74.1%	68.6%	88.3%	85.8%	84.5%	85.9%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
394	360	360	300	312	404	4,295	357.9
22	21	22	19	20	23	260	21.6
89.5%	85.7%	81.8%	78.9%	78.0%	87.8%	82.6%	

（3）平均工賃の推移

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月	10月
総支給額	160,352	152,802	203,704	144,400	211,810	182,915	207,209	218,837
平均工賃	6,412	6,946	7,835	5,157	7,565	6,533	7,674	7,546
支給人数	25人	22人	26人	28人	28人	28人	27人	29人

11月	12月	年末賞与	1月	2月	3月	年度末賞与	計
190,656	181,668	325,400	163,435	181,659	205,893	219,800	2,950,540
5,958	6,264	10,169	5,837	6,488	7,353	7,090	6,989
32人	29人	32人	28人	28人	28人	31人	451人

令和2年度は13件の問い合わせがあり、見学・体験を経て新規登録された方は6人であった。また、一般就労1人、進学1人、事業所変更・入院等による退所が4人であった。例年と比較して登録者数は増えたが、COVID-19拡大防止の為に、上半期利用者の通所利用自粛やイベント・販売会の中止により、年間を通しての利用延べ人数は減少した。

令和3年度は登録人数に応じた作業量の確保の為に、自主製品の販路拡大に努め、コロナ禍でも安全に作業を提供し続けられるよう努める。また、相談支援事業所を対象にアンケートを作成し、地域ニーズの把握と就労支援事業所に求めること、客観的に見た就労支援センターつばさの良い所・改善点を知ること、サービスの質の向上に努め、求められる「つばさ」にする。
(文責：中村)

3 行事等の年間活動

生活のリズムを整え、気分転換と交流の機会をもち社会性の幅を広げることを目的として活動している。今年度は COVID-19 感染予防を徹底し、食事の持ち帰りや手指消毒や換気、三密を避けるなど予防を徹底して行事を行った。

単位：人

開催月	活動内容	参加人数	開催場所
4月	花見	8	和田山、辰口丘陵公園
6月	作品展へ行こう！in 夢や	2	夢や
7月	好きな歌手のライブを楽しもう！	3	なごみの郷
	掃除&お昼ごはん	9	
	掃除&お昼ごはん 2日目	10	
8月	掃除&お昼ごはん	6	
	掃除&お昼ごはん 2日目	7	
9月	小川部長を囲んでお別れ会	13	
11月	映画鑑賞会	5	
12月	つばさ忘年会 2020	11	
1月	初詣、新年会	11	
2月	映画鑑賞会&焼きそば	7	
	つばさオリンピック	5	
3月	防災クイズ	8	

4 就労支援

(令和2年度の主な動き)

令和2年度は障害者職業センター、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、相談支援専門員、ご家族、行政・医療機関等と連携をとり計3人の就労支援を行い、内1人は一般就労に至った。就労支援特別プログラムは、ハローワーク同行、個別 SST (社会生活技能訓練)、チャレンジワーク (職場体験) を行ったが、COVID-19 の影響により就労支援実践セミナーや合同面接会は不参加だった。また、就労準備として (株) リクルートの Knowbe ソフトを活用しながら、ビジネスマナーや面接練習、履歴書の書き方などをグループ SST で行い、利用者同士での意見の交換やアドバイスを行い、お互いに意欲を高めていった。就労後の支援としては、障害者就業・生活支援センターのジョブコーチと連携しながら定着支援を行っている。

就労支援職員は、南加賀就労支援強化連絡会就労支援勉強会、障害者雇用連絡会議、就労支援に関わる研修等の参加を通して情報交換を行い知識の向上に努めた。

(令和3年度に向けて)

就労支援プログラムに関して、チャレンジワークなどで職場体験を行い、就労模擬体験の個別支援やグループ SST をしながら一般就労にむけて支援していく。また、一般就職希望だが、まだ体力に自信がない、症状が安定していない利用者にも他機関と連携しながら就職支援を行っていく。そして障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等と連携し求人探しから、面接、就職、そして、その後安定した勤務として定着するよう支援する。

(文責：金谷)

5 作業の概要

菓子製造販売部門

(令和2年度の主な動き)

- ・小松の特産品の大麦を使用した「いりがし」とお客様の要望に応えた、食べきりサイズの「いりがし」を商品化する事が出来た。
- ・小松市のふるさと返礼品として「こまつもの商品セット」の申請を行い、登録する事が出来た。
- ・出張販売、企画販売、委託販売では、昨年度から委託販売を開始したぶっさんやの改築工事の為、年度途中から年度末まで販売が休止となり、イオンモール新小松内わくわく広場の委託販売先の企業が撤退した事で販売先が少なくなった。また、今年度は COVID-19 蔓延防止の為、殆どの企業や地域のイベント等の出張販売が中止となった。又、緊急事態宣言等により、地域住民の外出の機会も少なくなったことで委託販売先の売上、持込の加工注文数も減少した。そのような環境下でも、今年度、小松市商工会議所の会員となったことで、売り上げ増や販路拡大のアドバイスを頂き、その結果、新たな企業等への営業を行い、注文販売先を増やすことができた。

<委託販売>

開催月	販売会内容	開催場所
3月	こまつおもいあいまちづくりフェスタ (いりがし・ぼんせんべい)	サイエンスヒルズこまつ

<常設販売>

販売場所	販売商品
安宅ビューテラス、 空の駅こまつ、ぶっさんや	加賀いりがしセット、いりがし各種 弁慶ぼんせん
イオンモール新小松内わくわく広場	加賀いりがしセット いりがし各種
小松市社会福祉協議会	いりがし、ぼんせん各種

<注文販売>

企業・団体（6件：118,740円）

企業・団体名	企業・団体名
石川県現業職員協議会	民生委員児童委員協議会広報部会
沖太郎丸神社	民生委員児童委員協議会地域福祉部会
小松市農林水産課	メンボラ ToMo の会

<企画販売>

6月～10月 リターンズ雨あがりキャラバン
(いりがし、ぼんせんべい、よくぼりセット)
個人注文 24件：33,490円
企業・団体注文 12件：182,500円

1月～3月 雛いりがし等 注文（いりがし、ぼんせんべい、菓子セット）

個人、企業・団体：33件：100,400円

※今年度より、小松市内の児童クラブへの営業を行うことで新たな販売先が増えた。

（令和3年度に向けて）

COVID-19の現状から考えると、令和3年度も販売会等のイベントが中止となることから、委託販売先や注文販売等の営業に力を入れ、また、これまで以上に衛生管理を徹底して安心安全な「いりがし・ボン菓子」をお客様に提供する。

利用者が作業に入りやすいようにOT（作業療法士）等の専門職と連携し、働きやすい環境づくりや方法を探っていく。

（文責：西東）

ダイニング部門

・喫茶

（令和2年度の主な動き）

COVID-19の影響により、外部のお客様のご利用を控えた。しかし、利用者や職員に向けての季節ごとのデザートを提供し、営業は通常通りに続けた。

また、シフォンケーキ製造は、小松市社会福祉協議会への納品の他に小松市内の児童クラブや病院等の外部注文と、くろゆり、はまかぜ、はまかぜ山口分場の月1回の注文製造により、火曜と木曜の定期的な製造の他にも臨時で製造、袋詰め作業を行い、利用者の作業を増やしていった。

（令和3年度に向けて）

令和3年度は、シフォンケーキの製造、販売に力を入れて、利用者の作業時間、工賃向上を目指していく。喫茶の営業に関しては、新型コロナウイルス感染症もあるので、安定して作業に従事できるように利用者をサポートし現状を維持する。

（文責：金谷）

・給食配食弁当部門

（令和2年度の主な動き）

- ・12月に就労支援センターつばさ利用者と職員を対象とした食品衛生講習会の実施で冬に流行する食中毒、特に衛生面についての講義を中心とした内容で実施した。
- ・顧客満足度向上のため、昼食アンケート（給食・弁当）を7月に実施し、その結果をメニュー作成時に参考とした。
- ・地域で食事を必要とする方への弁当配食を実施した。2月、3月には約30食の特注弁当の提供を行った。

（令和3年度に向けて）

- ・利用者にとって、厨房現場が安心して作業に取り組めるように環境を整え、必要な利用者には、個別で作業時間を考慮し対応していく。
- ・引き続き地域の必要な方へ弁当を配食する。また4月より月1回の能美市への配食弁当を開始する。
- ・年2回の身体測定の実施で利用者の必要栄養量を算出し、評価する。
- ・月1回の厨房内の害虫駆除（ゴキブリ、ネズミ）を実施。

- ・ 随時、厨房ミーティングを実施し、衛生面での意識付けと、作業における不満点や改善点を出し合い、作業環境を整えていく。
- ・ 年1回の昼食利用者へのアンケート調査(7月実施予定)からの結果を食事提供に生かし顧客満足度の向上を目指す。

(文責：山田)

昼食販売実績推移表

単位：食

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
給食	1,628	1,454	1,344
館内(弁当)	5,608	4,832	4,332
くろゆり	1,016	725	862
はまかぜ	1,493	881	409
山口分場	—	761	778
夢や	540	534	382
こまつ看護学校	403	356	—
南加賀保健福祉センター	83	50	—
その他(一般)	1,663	1,700	1,917
計	12,434	11,293	10,024

・ 委託作業

〈小松市からの委託〉

4月 納税課より小松市内の246町内会への納期カレンダー封入作業を請け負った。

5月 ふれあい福祉課より小松市内の240町内会への数種類の書類、ポスター、世帯数分のパンフレットを仕分けて紐でしばる作業を請け負った。

〈企業からの委託〉

沖田産業(株)のコード袋詰め、伝票のパソコンスキャン作業を請け負った。

10月からトウエイ工業株式会社のシールの穴あけ、ラミネート、釣り具作業を請け負った。

〈古紙リサイクルステーション〉

小松市との委託契約を更新し「古紙リサイクルステーション3号店」の管理運営を行った。年々、取扱量は減少しているが、今年はコロナで家族が在宅で過ごす時間が増えた事で連休にエコステーションに持ち込む方が集中した事で一時的ではあるが雑誌、古着等がエコステーションに納まりきらない時もあった。また、大雪によりエコステーション周辺の除雪が間に合わずエコステーションが開所出来ない日もあったことから、計画的に市役所エコロジー推進課と連携した対策を行う必要がある。昨年に引き続き取り扱えないリサイクル品や一般ゴミの放置、古着の物色等の処分や整理整頓の作業も継続して行っている。

年間を通して市役所のエコロジー推進課と連携してマナー違反の対応をしたが状況が改善されることは無く、地域の方々へ周知する方法が今後の課題となった。

古紙リサイクルステーション取扱量

単位：k g

種 類	令和元年度	令和2年度
段ボール・牛乳パック	8,040	8,440
新 聞	6,540	5,570
雑誌・チラシ	15,510	13,510
計	30,090	27,520

〈アクリルタワシ〉

- ・昨年度と比べても作業従事者、売り上げに大きな変化はなく、はまかぜからの注文が売り上げの大半を占めた。

〈リサイクル分別〉

- ・なごみの郷館内の缶・ビン・ペットボトルを毎週火曜日と金曜日に分別を行い月1回に「サービスセンターあしだ」へ運搬している。

(令和3年度に向けて)

- ・小松市より委託されている“古紙リサイクルステーション3号店”の利用マナーを小松市と連携して周知徹底を図りながら運営管理を行う。
- ・委託作業については、つばさの環境にあった作業を提供しつつ、力がついてきた利用者には菓子や厨房、喫茶など他の作業へ移行できるように支援する。

(文責：金谷)



盛り付け作業 給食配食弁当部門



商品提供 喫茶部門



いり菓子製造 菓子部門

令和2年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	給食	喫茶	菓子	アクリル たわし他	リサイクル 分別	エコステ 清掃	その他の 委託	計
収入の部計①	4,755,730	756,610	1,326,677	50,705		600,000	226,745	7,716,467
前年度収入	5,458,680	716,970	1,570,220	90,409		600,000	214,930	8,659,209
材料費								
材料仕入高	3,157,420	274,164	470,736	15,276				3,917,596
労務費								
利用者工賃	1,106,610	410,589	695,772	35,669	53,500	314,623	333,777	2,950,540
経費								
福利厚生費	26,400							26,400
消耗品費	161,789	24,483	50,145			6,844	13,652	256,913
水道光熱費	167,780		35,479					203,259
通信運搬費			1,750					1,750
修繕費								0
雑費	660		710					1,370
租税公課	129,702	27,513	36,182	1,383			30,063	224,843
支出の部計②	4,750,361	736,749	1,290,774	52,328	53,500	321,467	377,492	7,582,671
前年度支出	5,355,168	677,722	1,701,827	52,679	52,500	321,486	359,599	8,520,981
余剰金①－②	5,369	19,861	35,903	△1,623	△53,500	278,533	△150,747	133,796

(令和3年度に向けて)

基本方針

- ・「安心→自信→回復」を目指して利用者ニーズに応える事業活動を進めます。
- ・共生社会の地域作りに努め、地域に開かれた事業所としての取り組みを行います。

重点実施事項

- ① 利用者の体調安定の為、定期的な振り返りと関係機関との密な連携の下、電話や訪問支援含めたきめ細やかな対応を行います。
- ② 利用者の工賃向上と満足感を得られる作業提供の為、自主製品の販路拡大と利用者の特性に応じた作業の充実に努めます。
- ③ 地域課題の発見に努め、地域の一員としての役割を担うことで、つばさの意義や障がい理解を深める活動に努めます。
- ④ 引きこもりの方や日中活動に踏み出せない方の足掛かりとなる取り組みを地域の各関係機関と協議しながら進めてまいります。

(文責：中村)

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》
能美地域活動センターはまかぜ

1 事業の概要

能美地域活動センターはまかぜは、就労継続支援B型事業（定員20人）・地域活動支援センター事業（定員10人）を行う事業所として9年目を迎えた。

今年度は、COVID-19の影響を受け年間を通じて見学や新規利用登録の動きが大幅に減った。また登録利用者の方も利用を控える方がおり延べ利用実績が見込めなかった。作業に関しては、同じくコロナ禍の影響で行政・企業様等からの注文（印刷、内職）が少なく、特に主作業であった印刷作業は地域のイベント中止や、社会活動が停滞したためか名刺、チラシ印刷等を中心に減収となった。ただ令和2年度から本格的に始めた新規作業の大麦加工食品の販売が見込め、利用者の工賃を支えることが出来た。

コロナ禍の中、利用者の生活の安定、作業の取り組み、活動参加など、対応に苦慮する一年であったが、利用者・職員が感染することなく生活の営み、事業活動を継続し開所することが出来たことは幸いであった。

(1) 就労継続支援B型事業

(サービス内容)	心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。
(定員)	20人
(利用料)	1日584円（個人の所得によって上限がある）
(サービス提供日時)	月～金曜日（午前9時～午後4時まで）
(利用期間)	なし
(作業内容)	印刷業務：名刺、年賀状、機関誌、チラシ類、封筒 他 内職業務：梱包作業、箱作業、封詰め作業、他 自主製品：大麦ご飯の素、カブッキー・動物ぼち袋、手芸品 施設外就労：清掃作業
(その他)	昼食・送迎サービス

(2) 地域活動支援センター事業

(サービス内容)	心身面で日常生活に不安を抱える方に生活相談、創作、余暇活動などを通じて、その方らしい地域生活への活動を支援する。
(定員)	10人
(利用料)	4時間以下 266円 4時間を超えて6時間以下 346円 6時間を超えた場合 405円
(サービス提供日時)	月～金曜日（午前9時～午後4時まで）
(利用期間)	なし
(内容)	生活相談、創作・余暇活動（パソコン、レク行事〔カラオケ食事会、散策など〕）、生産活動、又ほっと一息の居場所としても活用
(その他)	昼食・送迎サービス

2 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続支援（B型）（定員20人）	28	27	27	27	27	27
地域活動支援事業（定員10人）	2	2	3	3	3	3

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年度平均
27	27	27	27	27	2	324	27
3	3	3	3	3	3	34	2.8

②市町村登録者数

単位：人

市町村名	能美市	小松市	その他	計
延人数	227	97	0	324
構成比率	70.0%	30.0%	0.0%	100%

③年代別登録者数（令和3年3月31日現在）

単位：人

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0	3	4	8	5	0	20
女性	0	3	2	2	2	0	9
計	0	6	6	10	7	0	29

(2) 延人数・利用率の推移

就労継続支援B型事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延人数（人）	196	197	284	257	246	270
開所日数（日）	22	18	23	23	22	22
稼働率	44.5%	54.7%	61.7%	55.9%	55.9%	61.4%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年度平均
305	267	280	199	222	279	3,002	250.0
24	21	24	20	20	25	264	22
63.5%	63.6%	58.3%	49.8%	55.5%	55.8%	56.3%	

地域活動支援センター事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延人数(人)	3	0	0	0	1	0
開所日数(日)	22	18	23	23	22	22
稼働率	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年度平均
0	1	1	0	0	0	6	0.5
24	21	24	0	20	25	264	22
0.0%	0.5%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	

(3) 平均工賃の推移

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月
総支給額	143,044	139,784	173,211	150,363	153,566	117,459	130,896
平均工賃	7,152	8,223	9,116	5,783	8,082	5,873	6,233
支給人数	20人	17人	19人	26人	19人	20人	21人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末賞与	年度平均
184,662	218,771	219,684	111,387	146,725	162,773	349,740	
9,233	12,896	11,562	6,552	8,631	9,043	16,654	8,864
20人	17人	19人	17人	17人	18人	21人	19.3人

令和2年度の新規登録者は1人、登録終了者は3人(サービス利用事業変更3人)であった。今年度はコロナ禍の影響か、昨年度と比べ利用への動きが大きく減少した。

(文責：山口)

印刷部門

(令和2年度の主な動き)

- ◇名刺— コロナ禍の為、社会活動が停滞したためか名刺印刷が前年度の半分以下となった。営業においても医療機関などへの出入りが制限される状況となり、従事者同行の営業が出来なかった。
- ◇年賀状— 4月早々にカタログ作成にとりかかり9月上旬には完成させた。その為、前年度より早めの営業、郵送作業を行うことが出来た。新規顧客を獲得する為に、白山市、野々市市などエリアを拡大し、職員がカタログ配布を行った。これまでに以上に多くの方に知ってもらう為、新聞やラジオこまつで告知した。また、喪中カタログを数年ぶりにリニューアルし、年賀状カタログとセットにして配布したことにより、喪中の注文件数は前年度の4倍となった。その為か顧客件数は前年度以上に増え、年賀状枚数も過去最高となった。
- ◇ぽち袋— 販売か所を一か所増やした。飽きのこないよう新しいデザインを利用者に考案してもらい、販売を行っていった。

◇その他ー 能美市より封筒印刷、JDDパンフレット、日本赤十字社献血粗品作り、イベントチラシ、パープルリボン作成、生活困窮者・DV相談カード作成、コミュニケーションカード作成、川北町より自殺予防啓発ミニチラシ・粗品づくり、メンボラ ToMo の会会報、小松市特別支援教育振興会機関紙、北浅井町公民館報、蝶屋福祉だより、なごみの郷事業概要・封筒、また個人様より複数注文いただいた。

(令和3年度に向けて)

利用者のスキルや作業効率を上げられるよう、利用者個人に合った指導を行いながら作業工程や環境を工夫し利用者がやりがいや自信を持って作業に取り組むことが出来るよう、きめ細かい支援をする。また印刷ミスやロスを出さないよう確認作業は徹底する。

前年度同様、コロナ禍で社会活動が制限されることも踏まえ、その中で工賃アップ、作業確保や販路拡大、新商品開発を目指し職員、利用者ともに一丸となり取り組んでいく。

(文責：南出)

項目	令和元年度	令和2年度	項目	令和元年度	令和2年度
年賀状	12,790枚	14,656枚	会報・機関誌	9,100部	5,300部
名刺	26,950枚	10,780枚	北浅井町公民館報	4,700枚	4,400枚
ぼち袋セット	288個	81個	封筒	620枚	10,048枚
チラシ・パンフレット類	5,874部	5,775部	なごみの郷事業概要	100部	110部
川北町自殺予防グッズ	2,000個	2,000個	なごみ通信	2,850部	2,993部

内職部門

(令和2年度 of 主な動き)

◇(有)前田ケース

今年度はケーキBOX、中芯作成、可変式紙ファイル作成の作業を行った。特にケーキBOXでは、慣れた作業でもあり作業効率も良くスムーズに作業に取り組むことができた。納期に間に合わせるために進捗管理をして、利用者の作業に対する意識やモチベーションの向上につながった。また、個々の特徴に合わせて作業を割り振ることで、利用者もストレスなく出来たことで生産能力の向上が図られた。

単位：個

前田ケース 作業	令和2年度
ケーキBOX 作業	27,000
可変式紙ファイル作業	10,850
中芯作業	4,200

◇(有)ADポイント

今年度は菓子箱フタ閉め作業、菓子箱折り作業、仕切り板作成、DM封入作業を行った。定番の作業であるが、利用者自身もしっかり検品しながら仕上げてもらふ事で、責任を持って取り組むことが出来た。

単位：個

ADポイント 作業	令和2年度
DM封入作業	3,218

(令和3年度に向けて)

(有)前田ケース、(有)ADポイントからいただける作業に取り組み、各取引先との連携・協力を密にし、より信頼をもっていただけるよう正確な検品や早期の納品などのニーズに応えることを努力していきたい。また、利用者の生産能力向上のために、作業準備時間短縮などの作業能率を上げる環境づくりを重視するとともに、目標量と実績を見える化することで作業に対する意識・意欲の向上を図る。

物販部門

(令和2年度の主な動き)

◇大麦ご飯の素

JA小松市様より「大麦ご飯の素」商品販売の業務を引き継ぐことになり、令和2年2月末より作業を開始し出荷していった。主な販売場所は、道の駅こまつ木場潟、JAあぐり、JA営農企画、能美グリーン、根上屋などでの販売及び、企業商店からの注文に応えることが出来た。利用者への作業も、精麦された大麦から不純物を手作業で取り除く選別作業や、計量し、専用袋に入れる計量作業、品物の封をするシーラー止め作業、ラベルに印字をする作業、また商品の配達や作業場を清掃する作業など、より多くの工程に関われる利用者の幅も広がった。自主製品なこともあり印刷同様、工賃率も高く満足のでられる作業となった。

項目	令和2年度
大麦ご飯の素 商品 (パック)	1,056
大麦加工品のみ (kg)	170

◇自主製品

コロナ禍で作業全般において注文数が激減し落ち込んだ雰囲気になった中、このピンチをどうチャンスにするかと考えた時に、新しい試みとして布小物づくりに取り組んだ。まずは手縫いにてティッシュカバー、ランチョンマット、髪飾り、マスクの製作から開始し、手探りですすめていった。特にマスクが手に入りにくい状況であったこともあり沢山の注文を頂く事ができ、女性用だけでなく男性用、子供用とラインナップを増やすことも出来た。

(令和3年度に向けて)

大麦ご飯の素作業は、販路の拡大やこまつもんへの登録、また大麦を使ったコラボレーション等を考えられるよう、地域商店、企業へ営業をしていきたい。またマスクや手芸品全般においてデザインや素材を吟味しながら、より使用感の良い魅力ある製品を提供できるように、日々試行錯誤を楽しみながら積み重ね製作していきたい。

施設外就労

(令和2年度の主な動き)

◇特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑 [入浴清掃作業]

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させる為、施設外就労への取り組みを行った。今年度も年間を通じて作業にしっかりと利用者が入ることができた。また、

丁寧な清掃を作業時間内に終えるよう自己点検を行いながら清掃作業に取り組んだ。

(令和3年度に向けて)

継続的に利用者が安定して従事し、作業の幅や質向上、従事日数が増えていくよう今後も支援する。また取り組む従事者数を確保し新たな施設外就労への取り組みを検討したい。

令和2年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	販売 他	印刷	大麦	ホニョール	前田ケース	その他内職他	計
収入合計①	446,116	3,121,263	941,352	62,500	242,431	232,827	5,046,489
当期材料	117,728	1,610,925	175,965	0	0	47,162	1,951,780
利用者工賃	28,380	1,785,474	521,121	71,875	236,198	232,281	2,875,329
消耗品費	0	0	3,762	0	0	0	3,762
外注加工費	0	50,000	2,590	0	6,975	4,358	63,923
租税公課	11,975	83,786	25,269	1,678	6,508	6,249	135,465
支出合計②	158,083	3,530,185	728,707	73,553	249,681	290,050	5,030,260
余剰金①-②	288,033	△408,922	212,645	△11,053	△7,250	△57,223	16,230

その他

(令和2年度の主な動き)

- ・地域交流の障がい福祉の理解、啓発の一環として行ってきたイベント、販売会関係はCOVID-19により中止を余儀なくされたが、能美市こころに寄り添い合う人づくり委員会企画として行った、地域住民に向けての精神障がい者への理解啓発講座は、初めてオンラインを使い、はまかぜ利用者3人が自身の経験談を話された。
- ・コロナ禍ではまかぜ行事も、縮小や思うように出来なかったが、その中でも利用者が実行委員になり年間を通して季節感のある行事を取り入れ、日々の生活の潤いと親睦を深めた。またSST(社会生活技能訓練)、グループワークや、就労セミナーなど一般就労等に向けた社会性の幅を広げる活動も実施した。

(文責:山口)

(令和3年度に向けて)

基本方針

- ・思いやりの心を第一に利用者寄り添う専門的なサービスを提供し、利用者から選ばれる事業活動を進めます。
- ・利用者の仲間づくりの場と役割としての場として、お互いに研鑽し成長しあえる活動を進めます。
- ・障がい者福祉向上の視点から、能美市の「我が事丸ごと」共生社会の役割を担います。

重点実施事項

- ① 機能の強みを発信し、新たな地域の障がい者の受け入れと作業工賃向上やメニューの拡充を図ります。
- ② 利用者(当事者)の同士の交流や、抱える地域課題など共有できる場を作り、地域活動への発信(当事者発表や交流事業など)を行います。

- ③ 行政、関係機関、相談支援事業所と連携して、一步を踏み出せない障がい者、引きこもりの方などへのニーズに応えるため、地域活動支援センターの機能を活かせるよう進めます。

(文責：山口)

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》
能美地域活動センターはまかぜ山口分場

1 事業の概要

能美地域活動センターはまかぜ山口分場は、就労継続支援B型事業（定員20人）等を行う事業所として能美地域活動センターはまかぜより平成2年4月に独立したが、COVID-19が流行し、見学・体験ができない状況が続くなか、作業確保は年間通してでき提供していくことが出来た。コロナ禍の中で、利用者の生活の安定、作業への取り組み、活動参加など、対応に苦慮する一年であったが、山口分場も利用者・職員が感染することなく生活の営み、事業活動を継続し開所することが出来たことは幸いであった。

(1) 就労継続支援B型事業

(サービス内容)	心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。
(定員)	20人
(利用料)	1日584円（個人の所得によって上限がある）
(サービス提供日時)	月～金曜日（午前9時～午後4時まで）
(利用期間)	なし
(作業内容)	内職業務：梱包作業、箱作業、封詰め作業、部品仕分、他 自主製品：デコレーションクリップ、他 施設外就労：清掃作業
(その他)	昼食・送迎サービス

(2) 地域活動支援センター事業

(サービス内容)	心身面で日常生活に不安を抱える方に生活相談、創作、余暇活動などを通じて、その方らしい地域生活への活動を支援する。
(定員)	10人
(利用料)	4時間以下 266円 4時間を超えて6時間以下 346円 6時間を超えた場合 405円
(サービス提供日時)	月～金曜日（午前9時～午後4時まで）
(利用期間)	なし
(内容)	生活相談、創作・余暇活動（パソコン、レク行事〔カラオケ食事会、散策など〕）、生産活動、又ほっと一息の居場所としても活用
(その他)	昼食・送迎サービス

2 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続支援（B型）（定員20人）	23	23	24	24	24	24
地域活動支援事業（定員10人）	1	1	1	1	1	1

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年度平均
25	25	25	25	22	22	286	23.8
1	1	1	1	1	1	12	1.0

②市町村登録者数

単位：人

市町村名	能美市	小松市	その他	計
延人数	166	96	24	286
構成比率	58.0%	33.6%	8.4%	100%

③年代別登録者数（令和3年3月31日現在）

単位：人

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0	3	1	3	8	1	16
女性	0	0	0	3	4	0	7
計	0	3	1	6	12	1	23

(2) 延利人数・利用率の推移

就労継続支援B型事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延人数（人）	212	189	243	242	216	227
開所日数（日）	22	19	23	23	22	22
稼働率	48.2%	49.7%	52.8%	52.6%	49.1%	51.6%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年度平均
223	214	236	196	197	226	2,621	218.4
24	21	24	20	20	25	265	22.1
46.5%	51.0%	49.2%	49.0%	49.3%	45.2%	49.4%	

地域活動支援センター事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延人数（人）	12	15	18	16	16	16
開所日数（日）	22	19	23	23	22	22
稼働率	13.3%	9.5%	9.5%	9.6%	11.4%	9.5%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	年度平均
16	16	18	19	17	23	202	0.8
24	21	24	20	20	25	265	22.1
9.6%	9.5%	3.9%	12.9%	15.3%	15.0%	7.6%	

(3) 平均工賃の推移

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月
総支給額	107,683	107,885	126,113	154,477	112,808	108,382	108,488
平均工賃	5,668	5,678	5,732	7,022	5,372	4,926	5,166
支給人数	19人	19人	22人	22人	21人	21人	21人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末賞与	年度平均
127,046	106,359	128,699	108,167	106,046	222,444	150,126	
6,687	5,318	6,435	5,408	5,891	11,708	7,149	6,271
19人	20人	20人	20人	18人	19人	21人	23.6人

令和2年度の新規登録者は3人、登録終了者は3人（圏域外転居2人、死去1人）であった。COVID-19の流行の為、見学・体験の受け入れが難しい状況の中、感染対策をし、各関係機関と連携しニーズに沿った利用に繋がるよう努めた。

(文責：江端)

企業委託作業部門

(令和2年度の主な動き)

◇三和物産㈱

葬儀用品の作業を行う。アメニティセットや箱の組立、セット物の詰め作業、お香の袋詰めやケース詰めなど多種多様な内職作業を、COVID-19の影響も少なく、年間通して請け負うことができた。利用者個々の特徴を捉え、作業提供をしつつ、取り組んだことのない作業にも取り組めるよう利用者と話し合いをしながら進めた。

◇宏文印刷㈱

前年度より引き続き、骨上箸の作業を請け負うことができた。COVID-19の影響は少なく、作業量は前年度と変わりなくあり、年間を通して利用者全員が従事できる作業となった。骨上箸以外にも印刷紙の二つ折り作業やシール貼作業なども短期納期の作業として請け負うこともできた。

◇J A小松市

J A小松市より委託を受け「マイルドトマトカレー」、「竹の子ごはんの素」の2種類のレトルトパウチ箱詰め作業を行い、職員による検品の後、利用者による作業ごとの検品や商品の納品も利用者の作業として行った。

内職納品数

単位：個

商品名	納品数	
	令和元年度	令和2年度
マイルドトマトカレー	28,087	21,163
ヘルシートマトカレー	2,320	768
竹の子ごはんの素	5,990	4,353
納品総数	36,397	26,284

◇コマニー(株)

「S L - ポールウワドメ」、「S L - ポールシタドメ」、「S L - MF カナグ」、「P L - ポールウワドメ」、「P L - ポールシタドメ」5種類の作業を行う。袋詰めした後に箱詰めする作業も引き続き請け負った。利用者にも検品をしてもらい、自分の行った品物を一緒に確認することを続けることで、よりミスのない作業を心がける意識が強くなった。

内職納品数

単位：個

金具名	納品数	
	令和元年度	令和2年度
S L - ポールウワドメ	460	440
S L - ポールシタドメ	500	480
S L - MF カナグ	2,112	1,920
P L - ポールウワドメ	1,180	880
P L - ポールシタドメ	1,220	940
納品総数	5,472	4,660

自主製品部門

◇デコレーションクリップ

新型コロナウイルスの影響により、販売会がなく、販売する機会が減少したことにより、作成作業を行うことはできなかったが、前年度に作成していた分は道の駅で販売することができた。

(令和3年度に向けて)

三和物産(株)、宏文印刷(株)、J A小松市、コマニー(株)などの各取引先との連携・協力を密にして、より信頼をもってもらい、新しく作業の依頼をしていただけるよう努めていく。より正確な作業や欠品の少ない納品になるよう計画的に作業の流れを作り、作業工程を細分化することで、作業種類の確保を行い、より利用者に合わせた作業提供ができるよう工夫をする。併せて新しい作業を請け負うことができるよう新規取引先の開拓を行い、作業量の確保と工賃向上を目指して行動していく。また創作活動と作業を組み合わせた新たな自主製品の開発を行い販売もしていきたい。

(文責：前出)

施設外就労

(令和2年度の主な動き)

◇特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑〔入浴清掃作業〕

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させるため、施設外就労への取り組みを行った。また新たに作業に従事する利用者も増え、安定して作業に従事することができた。丁寧な清掃を作業時間内に終えるよう自己点検を行い、各作業に全員が従事できるよう定期的に作業内容を入れ替えながら清掃作業に取り組んだ。

(令和3年度に向けて)

利用者が安定して作業を継続できるよう、従事日数が増やしていけるよう今後も支援する。また施設外就労に取り組む従事者数を確保し、現在の施設外就労の日数を増やすことに加え、新たな施設外就労への取り組みをしていきたい。

(文責：前出)

令和2年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	販売 他	J A	ボニジュール	コマニー	前田ケース	三和物産	他内職	計
収入合計①	122,964	260,165	120,000	101,298	6,243	1,301,540	1,000	1,913,210
当期材料	4,765	0	0	0	0	77,537	0	82,302
利用者工賃	9,794	191,327	100,625	45,495	0	1,048,613	1,948	1,397,802
外注加工費	750	0	0	7,000	0	22,630	0	30,380
租税公課	3,301	6,984	3,221	2,719	168	34,938	27	51,358
支出合計②	18,610	198,311	103,846	55,214	168	1,183,718	1,975	1,561,842
余剰金①-②	104,354	61,854	16,154	46,084	6,075	117,822	△975	351,368

その他

(令和2年度の主な動き)

- ・能美地域活動センターはまかぜ山口分場として4月に独立して事業を展開した。COVID-19の影響で見学・体験の希望に添えないことが多かったが、そのような状況の中、3人の新規利用者が利用を始めることができた。作業量もCOVID-19の影響を受けつつも、作業を細分化することで作業量を確保でき、企業からの作業依頼も無いという状況はない1年だった。
- ・地域への障害福祉の理解、啓発の一環として前年度まで参加していた「ぼくらの街フェス in 能美」や「能美市ボランティアフェスティバル」などの地域活動は自粛される状況であったが、山口町の町内清掃の参加や、町内回覧板にも加わり、お祭りには山口春日神社のお札を頂いたり、正月には初詣もさせて貰うなど町内を知る活動を行った。又、町内行事の際に事業所の駐車場を開放して、町内から声をかけてもらえる関係作りに努めた。
- ・COVID-19の為、年間行事は3か月に1回程度の行事となり、週1回の余暇活動を継続して行うことで、イベント等の自粛・活動制限・感染対策が行われる中でも、生活の中の楽しみと他の方々との親睦を深める機会とした。

(令和3年度に向けて)

基本方針

- ・思いやりの心を大切に専門的なサービスを提供し、利用者が安心して通える事業活動を進めます。
- ・利用者の仲間づくりの場となり、利用者が無理をせず成長していける場の提供に努めます。
- ・能美市が取り組む「我が事丸ごと」の地域作りに、障がい者福祉の視点から事業所として取り組みます。

重点実施事項

- ① 新規の利用者を増やせるよう、事業所としての特色を関係機関に知ってもらう活動を行います。
- ② 地域貢献の一環として、山口町の行事・活動に参加・協力し、障がい者、事業所を理解してもらえる機会を作り、声を掛けてもらえる関係づくりに努めます。(山口分場として町内清掃活動を年1回など)
- ③ 自主製品の企画・製作を進め、新たな作業の獲得に努め、事業所の柱となる「もの」を開拓していきます。

(文責：江端)

《共同生活援助事業（介護サービス包括型）》

グループホームなごみ・しらさぎ

1 事業の概要

(目的) 共同生活援助事業は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

<グループホームなごみ>

(定員) 10人

(家賃) 月額28,000円(但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)

※家賃助成制度あり

<グループホームしらさぎ>

(定員) 6人

(家賃) 月額23,000円(但し、電気水道代及び食事代は、自己負担)

※家賃助成制度あり

<共通>

(利用料) 区分と所得に応じて各自異なる。

(共益費) 入浴代、共通利用部分電気代等 月額2,000円

(食事) 基本的には自炊。(必要に応じて世話人、生活支援員が支援する)

また、希望すれば、月～金の昼食、夕食は、給食サービスが利用できる。

(洗濯) 洗濯機1回(30分)100円、乾燥機1回(60分)100円
 (駐車場代) 月額1,000円(なごみの郷駐車場利用者、自転車2台目から)

2 年代別利用者内訳(令和3年3月31日現在) 単位:人

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代~	計
男性	0	0	0	2	3	5	10
女性	0	0	0	0	2	3	5
計	0	0	0	2	5	8	15

3 利用状況

令和2年度 グループホームなごみ・しらさぎの入退去者数 単位:人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入所	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
退所	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—
月末利用者数	15	15	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15

令和2年度 グループホームなごみ・しらさぎの入居実数 単位:人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なごみ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9
しらさぎ	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
月末利用者数	15	15	16	16	16	16	16	16	15	15	15	15

グループホームなごみ定員10人、しらさぎ定員6人。令和2年度は、4月にアパートから1人、6月にグループホームから1人入居し満室となったが、1人入院の為、12月に退去となった。令和3年3月31日現在で15人の入居者となっている。

4 主な日中の生活の場(令和3年3月31日現在)

- ・就労継続支援事業B型 6人
- ・生活介護事業 2人
- ・地域活動支援事業 2人
- ・一般就労 1人
- ・該当なし 4人

5 利用者支援等

1) 行事及び活動

① 地域交流等

- ・毎年恒例の北浅井町町内会一斉清掃は、COVID-19の為、開催されなかった。
- ・年2回、9月と3月に防災訓練を行っている。9月は夜間の火災を想定し、実際に非常ベルを鳴らしての避難訓練を行った。グループホーム玄関の前廊下から出火場所とし、駐車場に避難した。3月は小松でも最大震度6弱の地震が起こる可能性があるとの伝え、「命を守る部屋作り」に焦点をあてる。先月あった福島沖地震(震度6強)のニュース映像を見てもらい、個々人の感想を聞く。最後に家具の転倒防止、ガラスの飛

散防止、特に自室での逃げ道の確保が大切と説明した。日常の中にも防災を意識することを促す。

② 利用者間交流

平日午後4時頃より利用者同士の交流を図るため、「フレンズの会」を行っている。今年度はCOVID-19拡大防止対策の為、自粛しながらの開催であった。マスクの着用や三密を作らない様に行った。

(フレンズの会の内容)

憩いの間に集まって歌を唄ったり、手作りのすごろくやトランプなどのゲームを行っている。時にはストレッチや体操、近所をウォーキングするなどの軽い運動も取り入れている。

2) ミーティング

毎月1回、定例でグループホーム利用者全体ミーティングを行い、行事等のお知らせや共同生活を行う上でのルール等を皆で話し合っている。今年度はCOVID-19について臨時でミーティングを開くことも多かった。定例の話し合いでは健康についてやゴミ問題等などの話し合いを行った。

月	種別	参加者(人)	内容
4	定例	13	障害者タクシーチケットについて。S氏退居の報告。法人全体のゴールデンウィークの予定表。3月に行った防災訓練の振り返り。《生活お役立ち情報》市の集団健診の推奨。改正健康増進法の説明(館内での喫煙は禁止。喫煙はGH玄関の外の喫煙場のみ) COVID-19感染予防について。
	臨時 9日	12	COVID-19感染予防について：マスク着用。手洗いと手指消毒。不要不急の外出を避ける。三密を避ける。バランスの良い食事と睡眠。発熱の場合は、職員の指示に従う。
	臨時 23日	12	COVID-19感染拡大防止について：検温について。発熱について。ストレッチ・リラククス法。ゴールデンウィークのお知らせ。
5	定例	13	GH契約書更新。町内一斉清掃について。なごみ祭中止。COVID-19感染予防の対応について。マスク配布。《生活お役立ち情報》換気について。※終了後、しらさぎミーティング(消耗品費の集金。掃除変更後の感想)
6	定例	14	消防設備点検のお知らせ。居室ワックスがけ大掃除の告知。ゴキブリ団子の配布。7月からレジ袋有料化。COVID-19の対応(コロナ差別をしない。三密を避ける。マスク着用、手洗い他)《生活お役立ち情報》マスク熱中症について
7	定例	13	入居者の紹介。新しい生活様式における熱中症予防行動のポイント。自転車や歩行の安全についての意見交換。《生活お役立ち情報》食中毒について。レジ袋について。 ※終了後、喫煙者ミーティング(吸い殻用の袋について)

8	定例	1 3	COVID-19の対応について。GHの聞き取りアンケートについて第三者委員会告知。GHの決まりごとR2年度版の配布。《話し合い》ごみの分別、捨て方について《生活お役立ち情報》骨盤底筋を鍛える。
	臨時	1 2	COVID-19について：新しい生活様式についての説明。コロナ差別防止について。
9	定例	1 3	ワックスがけ大掃除の告知。避難訓練の告知。転倒防止として、部屋のいらぬものを処分。室内エアコンの排水管が埃で詰まる。《生活お役立ち情報》『新しい生活様式』を健康に！
10	定例	1 4	作業停電の告知。インフルエンザ予防接種の告知。COVID-19感染予防の対応について。布マスク配布《生活お役立ち情報》防災アンケート。国勢調査を記入。
11	定例	1 3	脱衣場ガスヒーターと浴室エアコンの使用について。居室の年末すすはらい大掃除の告知。不要な靴と傘の処分をお願い。インフルエンザ予防接種の告知。作品募集。小松大学学生実習について。職員防災訓練の告知。理事会開催日告知。《生活お役立ち情報》インフルエンザについて。 ※終了後、しらすぎミーティング（玄関の靴、ゴミ箱、GHなごみ玄関の内・外履きラック、しらすぎ玄関の照明について）
12	定例	1 3	消防設備点検の告知。館内の大掃除の告知。自立支援災害チームよりアンケート。第三者委員会告知。ねずみ対策のため、居室清掃を。不要な靴と傘の処分をお願い。年末年始のお知らせ。《生活お役立ち情報》間食について、ノロウイルス、COVID-19の対応
1	定例	1 2	COVID-19の対応。12日の夕食に雑煮。間違え探しに応募。《話し合い》新聞の件について①。今年GHでやってみたいこと。
2	定例	1 3	5日男子風呂工事で使用不可。3月の防災訓練の告知。なごみ通信の記事募集。COVID-19の対応。分別ごみ箱について。《話し合い》新聞の件について②。大雪を振り返って。
3	定例	1 2	防災訓練の告知。COVID-19の対応。しらすぎ2階のエアコンの取り換え工事の告知。男女浴室入り口の床補修工事の告知。缶詰用ゴミ箱の設置。《話し合い》新聞の件について③。 ※終了後、しらすぎミーティング（消耗品費の集金、そうじ当番について）喫煙者ミーティング（喫煙時のマナー等）
	臨時	1 3	新マモルックについて。新型コロナウイルスワクチン接種（するorしない。ワクチンの副反応。COVID-19に感染後の後遺症について）

3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・生活リズムを整えるための支援（朝の声かけ、体調確認や日中の過ごし方の確認等）
- ・買物支援（生活に必要な物の購入の仕方等）
- ・金銭管理（福祉サービス利用支援事業の利用、生活費等の使い方の支援等）

- ・清掃支援（ゴミの出し方や居室の清掃、共有スペースの清掃）
※グループホームしらさぎのみ
- ・清潔保持の為の支援（入浴・洗濯の声かけ、身だしなみの促し等）
- ②医療に関する支援
 - ・服薬管理（服薬の確認等） ・受診同行
- ③個別面接及び相談支援
 - ・個別支援計画面接 ・日中の相談支援
 - ・午後9時半まで世話人の配置を行い利用者の服薬管理及び支援や緊急時の対応
- ④家族支援
 - ・家族からの相談対応
- ⑤関係機関との連携
 - ・利用者に関わる機関や行政及び病院関係者と連携しながら支援を行っている。

6 令和2年度の動向

今年度は、COVID-19 のこともあり、感染症対策について話し合いを行う事が多かった。感染症対策として、体温測定・マスク・アルコール消毒・ソーシャルディスタンスを徹底しミーティングなど人が集まる場面では場所や密にならない工夫などを行いながら元気に毎日を過ごせるように取り組んだ。行事等はなかなか開催することが出来なかったが、一番多く集まる夕食時間に、夕食利用者の誕生日のお祝いとして喫茶ウッディのチケットをプレゼントし、入居者同士の一体感が味わえる時間を設けた。その他、日常生活面では安心した生活を送れるように利用者個々の状況に応じて必要な支援を行った。コロナ禍で色々なことが自粛・制限されてきたが、健康面を意識しながら一人一人が安心した生活を送れるように今後も意識して支援していきたいと思う。

(令和3年度に向けて)

基本方針

- ・利用者の体調や日常生活を整え、健康で元気に安心した生活を送れるように支援します。
- ・グループホームの生活は、「地域で暮らす住人である」という意識を持って生活していくことを目指します。
- ・グループホームの提供するサービスが利用者の求めているものと合っているか検証し、サービスの質の向上に努めます。

重点実施事項

- ① 健康で元気に過ごしていけるように健康診断の促しや運動を生活に取り入れていきます。
- ② 利用者個々の力に合わせて日常生活を送るために必要なことを支援していきます。
- ③ 入居者同士が助け合って皆で楽しく暮らしていける場所や機会を作っていきます。
- ④ 入居者が地域で暮らす住人として地域の方と関わり合いをもっていくことが出来るように取り組んでいきます。
- ⑤ グループホームの在り方を利用者や地域のニーズと運営のバランスを考えて検証していきます。

- ⑥ 利用者へより良いサービス提供ができるように多くの関係機関と連携しながら支援の質の向上に努めます。

(文責：瀬戸)

《共同生活援助事業（外部サービス利用型）》
グループホーム弥生荘

1 事業の概要

- (目的) 外部サービス利用型共同生活援助計画に基づき、必要に応じて受託居宅介護サービス事業者による受託居宅介護サービスを適切かつ円滑に提供することにより、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営む事ができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。
- (定員) 4人
- (家賃) 月額21,250円(2階2部屋)又は26,250円(1階2部屋)
※家賃助成制度あり (但し電気、ガス、水道代は自己負担)
- (利用料) 所得に応じて各自異なる。
- (共益費) 入浴代、共通利用部分電気代等 月額1,000円

2 利用者状況

定員4人のところ、平成24年4月1日から令和2年5月31日まで入退去なく4人が入居していたが、5月に1人(60代)、6月に1人(60代)、8月に2人(50代)がそれぞれ次の住まいに移った。

3 主な日中の生活の場(令和3年3月31日現在)

- ・就労継続支援事業A型 1人
- ・就労継続支援事業B型 1人
- ・該当なし 1人
- ・病院デイケアと就労継続支援事業B型との併用 1人

4 利用者支援等

1) 行事及び活動

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、行事や活動は自粛した。

2) ミーティング

- ・毎月第1木曜日に弥生荘ミーティングを行っている。ミーティングの内容はGHからのお知らせや全体行事の告知のほか、COVID-19感染症関連の話題を毎回取り上げ、感染予防に取り組んだ。

《相談支援事業》

相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ

1 事業の概要

(目的) 障害を持たれた方やそのご家族の福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援等、必要な支援を関係機関との連携を取りながら行うとともに、虐待の防止及びその早期発見、その他の障害者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

(利用料) 無料

(利用時間) 月曜日～金曜日(土・日・祝日、12/29～1/3はお休み) 9:00～17:30

2 事業の実施期間 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

3 事業内容

- ・基本相談(小松市、能美市、川北町より委託)
福祉サービスに繋がっていない障害のある方、その家族への相談業務と必要な支援を行う。
- ・特定相談支援
福祉サービス利用者に対し、サービス利用計画の作成を行い、サービス調整や必要に応じて支援を行う。
- ・一般相談支援事業(地域移行・地域定着)
精神科病院からの退院支援、施設入所施設からの対処支援、その後の地域生活が定着するよう支援を行う。
- ・障害児相談支援事業
サービス利用計画書の作成を行い、サービス調整や必要に応じて支援を行う。

相談支援センターなごみ

①年間利用状況

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談実人数	69	58	63	75	68	64	69	64	64	56	64	61	775
相談件数	170	156	172	193	157	173	150	142	146	103	109	110	1,781
計画相談件数	56	41	37	44	48	44	53	36	38	45	50	44	536

②年間支援方法

単位：人

訪問	来所相談	同行	電話相談	個別支援 会議	関係 機関	その他	計
518	51	78	755	85	259	36	1,782

③サービス等計画作成対象者（令和3年3月31日現在）

単位：人

年齢	～10代	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	10	7	7	7	9	14	21	75
女性	5	2	7	6	8	11	12	51
計	15	9	14	13	17	25	33	126

④小松市障害支援区分認定調査数

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3	2	4	2	4	2	4	2	5	3	5	0	36

（令和2年度の主な動き）

昨年同様、児童発達支援や放課後等デイサービス等の利用を希望する児童のケース依頼が多かった。今後も引き続き児童のケースは増加していくと思われる。

COVID-19の影響で病院や施設、事業所の出入りができず、サービスの調整が滞ることが多かった。特に病院に入院している方は外出・外泊が困難となり見学や体験利用等ができず、退院支援を予定通りに進めることができなかった。コロナ禍で訪問や同行での支援件数は減った一方、電話相談の件数は増えている。

6月より地域生活支援拠点の整備の一環として、市内5か所の相談支援事業所の連携による「障がい者相談支援センター」が市社会福祉協議会内に設置された。これにより夜間・休日の緊急相談や一時受け入れ等のニーズにも対応できる体制が整った。今後は現在の地域生活支援拠点の機能を更に発展・向上することに加え、重層的支援体制整備事業についても各関係機関と検討を重ねる必要がある。

＜行政、他機関との連携＞

相談支援専門員としての動きやケースを通しての共通理解などを深め、行政や病院、学校、他の事業所との連携を強化し、チームとして活動していけるようケース報告やケース検討を行った。また、相談支援の在り方や今後の相談支援の体制などについての話し合いを行った。

- ・連携支援会議 毎週金曜日 ふれあい福祉課、障がい者相談支援センターと合同でケース報告、新規ケースの依頼、情報交換（オンラインにて）
- ・小松市相談支援事業所連絡会 月1回（オンラインにて）
- ・その他ケースにあわせたケア会議の出席や情報共有
- ・高齢者総合相談支援センターミニ地域ケア会議
- ・小松特別支援学校進路連絡会
- ・精神障害者地域生活支援事業 地域連絡会

＜障害者自立支援協議会＞

年度目標をたてながら課題整理や年度計画達成に向けた活動を行った。

- ・全体会 年1回 5月に開催 ※今年度はCOVID-19の影響で書面表決
- ・運営委員会 年4回 ※今年度はCOVID-19の影響で開催できてない
- ・当事者の声を聴くための仕組み作りを考える会リーダーとして出席

※COVID-19の影響で年3回のみ開催 当事者会は開催できなかった

- ・精神障害者等地域生活支援研究会 年1回
- ・福祉つながりネットワーク ※今年度は COVID-19 の影響で開催できてない
- ・石川県自立支援協議会ネットワーク会議出席 年1回

(令和3年度に向けて)

障害を持たれた方やご家族の、福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援など、関係機関や地域との連携を取りながら、その方が地域でよりよい生活が送れるよう必要な支援を行います。

重点実施事項

- ① 地域生活支援拠点づくりについて、行政、関係機関との連携を行い、包括的な相談支援体制について協議します。
- ② 自立支援協議会への積極的な参加により、地域課題整理や資源開発に向けた活動を行います。
- ③ 各種研修会や事例検討会などの参加、また個々のケースを通じた連携などにより、専門職としてのスキルアップをはかります。

(文責:堂前)

相談支援センターはまかせ

①年間利用状況

単位:人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談実人数	36	29	46	34	34	38	43	42	45	32	42	47	468
相談件数	86	78	117	81	86	91	103	92	93	84	87	110	1,108
計画相談件数	19	14	24	16	22	24	20	15	22	9	17	21	223

②年間支援方法

単位:人

訪問	来所相談	同行	電話相談	個別支援会議	関係機関	その他	計
684	169	182	720	16	6	0	1,777

③サービス等計画作成対象者(令和3年3月31日現在)

単位:人

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	6	6	7	14	20	3	56
女性	0	0	4	9	7	3	23
計	6	6	11	23	27	6	79

④能美地域障害程度区分認定調査数

単位：人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
8	3	2	5	1	1	1	1	2	1	3	4	32

(令和2年度の主な動き)

COVID-19の影響で、感染拡大防止のため、三密を避けた関わり方や会議開催の検討をした1年であった。コロナ禍で三密を避けなければということを配慮はしつつ、それでもこの異常事態の中、利用者の皆様の不安感が増していたので、今までの支援を全てストップさせてしまうことがないように、直接お会いすることが難しい場合は、お電話やメールなどの活用も行った。また、お会いする場合には、体温測定や体調確認などを行いながら、ソーシャルディスタンスを意識し、短時間でご自宅への訪問などをさせて頂いた。また、三密になる会議開催については、各関係機関で情報共有ができるように、主にオンライン会議などの新しい方法も取り入れ、会議開催を行った。

令和2年度の相談傾向としては、ご家族の方から、親亡き後のことを不安に感じて、ご相談頂いたケースが多かった。こういったケースの場合、ご本人さんに直接お会いできない場合もあるので、ご家族さんの中だけで悩みを抱え込むことがないように、定期的にご訪問等をさせて頂きながら、相談して頂きやすい関係性を目指した。

<行政、他機関との連携>

今年度は、COVID-19の影響で、三密を避けるため、例年通り開催されていた自立支援協議会の開催が行えず、主にオンライン会議などで行政や他機関との情報共有を行っていた。

<障害者自立支援協議会>

能美市では分野別連絡会として、相談支援事業所連絡会、こども連絡会、事業所連絡会（通所系、訪問系）があり、各連絡会で地域課題等を出し合い、課題に対してどのように取り組んでいくのかなど協議を行っている。だが、令和2年度はCOVID-19の影響で、三密を避けるため、主にオンライン会議などでの協議を重ねた。事業所連絡会通所系では、主に障がい者の理解促進と就労環境の課題について話し合いを進めていた。訪問系では、訪問系従事者の人員確保の取り組みについて、令和元年度より引き続き課題としてあがっていたが、人員確保の取り組みは訪問系の連絡会だけでなく、能美市自立支援協議会全体での取り組みが必要なのではないかという声があがっていた。他には、災害時の対応について、COVID-19感染予防の取り組みについてなど話し合われた。子ども連絡会では、医療的ケアを必要とする児童に関してや放課後等デイサービスの不足についてなどのそれぞれ地域課題を出し合い、協議されていた。

各連絡会であがった地域課題は、運営会議にて報告され、定例支援会議に向けて検討課題の整理等を行っている。

(文責：海老原)

(令和3年度に向けて)

基本方針

南加賀圏域の各市行政、社会福祉協議会、医療機関、福祉サービス事業所などと連携をとり、障がいのある方の安心で豊かな生活の支えとなることや、高齢化や親亡き後を見据えた柔軟で切れ目のないサポート体制などを関係機関等と協働しながら、社会福祉の課題に取り組み、地域福祉の向上を目指します。

重点実施事項

- ① 地域、行政、関係機関などと顔の見える関係性を構築し、連携の中で役割を補完し合いながら障がいのある方へのサポートを行い地域で安心して生活できるよう関わっていきます。
- ② 自立支援協議会や地域関係団体協議会、事例検討会等への参加を通して、地域社会資源の開発、人材育成に役立てることが出来るよう専門職として発揮活動します。
- ③ 家族全体がニーズを抱えているケースが増え、多様な連携やきめ細やかな関りが求められるので、長期的な視点で家族全体を関係者で支え一緒に考え一緒に次のステップへ進んでいけるよう支援に努めます。

(文責：海老原)

《生活介護事業、地域活動支援事業》

地域活動センターくろゆり

1 事業の概要

(1) 生活介護事業 (介護給付)

(目的) 日常生活をより豊かにするため、創作活動、余暇活動、生産活動の機会を提供し、必要に応じて、食事や入浴、服薬、排泄等の介助等支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。

(定員) 20人

(利用料)	1日 (区分2)	552円	(区分3)	605円
	(区分4)	675円	(区分5)	957円
	(区分6)	1,269円		

(利用期間) なし

(利用区分) 区分3以上、50歳以上の方については区分2以上

(2) 地域活動支援センターくろゆり (小松市、能美市、加賀市、川北町委託事業)

(目的) 創作活動、余暇活動、生産活動などを通じ、各個人がそれぞれの生活を豊かにし、生きがいや夢を持って生活できるように創意工夫し支援を提供すること。また、「気軽に立ち寄れる場所」としての機能を重視することを目的とする。

(定員) 若干名

(利用料)	4時間以下	266円	4時間を超えて6時間以下	346円
	6時間を超えた場合	405円		

(利用期間) なし

(利用区分) なし

(3) サービス内容

- ・創作活動：アート、ハンドベル、調理、野菜作り、詩の制作 etc.
- ・余暇利用：買い物、カラオケ、ドライブ、散歩 etc.
- ・生産活動：ねじの袋詰め、ハーネス袋詰め、館内消毒作業
- ・健康維持：運動、脳トレ
- ・地域活動：町内ごみ拾い
- ・季節行事：初詣、花見、忘年会、年度末会 etc.
- ・各種相談：金銭相談、制度相談、生活相談、医療相談・同行 等
- ・その他：訪問、送迎サービス 昼食注文サービス

2 事業利用状況

(1) 登録者の状況

①月別、事業利用別登録者数の動向

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
生活介護	13	13	13	13	13	13	13	14	14	15	15	15	13.7
地域活動	11	11	12	13	13	16	16	16	16	17	18	18	14.8
計	24	24	25	26	26	29	29	30	30	32	33	33	28

②市町村別事業利用別登録者数

単位：人

項目	小松市	能美市	加賀市	川北町	計
生活介護	12	3	0	0	15
自立(生活)訓練	事業休止/11月より事業廃止				0
地域活動	14	3	1	0	18
計	26	6	1	0	33

③年代別登録者数 (令和3年3月31日現在)

単位：人

年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	2	3	3	2	5	2	17
女性	1	2	5	1	6	1	16
計	3	5	8	3	11	3	33

6月よりくろゆりの通信「くろゆりずむ」を発行し、各関係機関に配布し、不動島町に回覧していただいた。くろゆりがどんな場所なのか、少しでもわかっていたような内容にしたつもりである。その甲斐あってなのか、15件の問合せをいただき、13件見学に来ていただき、生活介護事業2人、地域活動支援センター事業7人、合計9人の新規登録者を

得ることができた。また見学時は画像データを見せるなど、より分かりやすい対応を心掛けた。

今年度は小松特別支援学校からの実習生も受け入れ、登録へとつながった。個別対応が必要な利用者が増え、各々のパーソナルスペースをいかに確保し、どのように対応していくか、今後もより一層工夫していく必要がある。

(2) 利用人数の状況

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
生活介護	122	113	127	130	104	107	117	137	147	112	124	127	1,467
自立訓練	事業休止/11月より事業廃止												0
地域活動支援	2	13	28	43	50	57	64	38	40	27	20	34	416
利用者数月計	124	126	155	173	154	164	181	175	187	139	144	161	1,883
一日の平均利用者数	5.9	7.0	7.0	7.9	7.7	8.2	8.2	9.2	8.5	7.0	8.0	7.0	7.6

1日平均7.6人の利用となり昨年度と比較すると0.2人の減となった。稼働率は、生活介護事業52%、地域活動支援事業11.3%となっている。登録者が9人増えたにもかかわらず平均利用率が下がったのは、入院が4人出てしまったこと、転居により毎日来ていた利用者が来なくなったこと、新規登録者の方の割合が来所できていないことが原因である。どこにもつながりにくい方々に登録していただくことができて、そこから安定した利用継続することが非常に難しかった。今後の課題である。

3 事業活動内容

(令和2年度の主な動き)

例年通り、利用者に意見を聞きながら活動内容を組み立てていった。明確な目的を設定することを心掛け、例えば「ハンドベル」では、いつか慰問演奏に行けるようになろうとか、「アート」では展覧会に出品する作品を作ろう、などである。結果、参加する利用者の方からやる気がみられるようになった。他にも利用者の声を汲んで「足湯」を月に2回に増やしたり、「地域活動」ではおそろいのユニフォームを着て町内のごみ拾いを行ったりと、今まで以上に活気ある活動が行えた。

作業は毎日行える沖田産業(株)を定着させ、くろゆり内の一部消毒を利用者への委託作業とするなどし、工賃向上を目指した。結果、中には作業に熱心に取り組む利用者の工賃が1万円を上回る月があった。

COVID-19の影響で、小旅行、飲食を伴う交流会、ボランティアの方との交流など、利用者が楽しみにしている活動・行事が中止もしくは縮小されたが、できる範囲での楽しい活動を利用者と共に作ることができた。

以下、主だった動きを箇条書きにて記す

- ・通信「くろゆりずむ」を発行し、地域や各関係機関に配布。
- ・町内会の清掃活動に参加(職員1人)。自主的な町内清掃活動を利用者と共に行った。
- ・DIYによる館内リフォームにて、フィットネスルームを作り、リビングの押入れを開放しパソコンや休憩をとる場とした。2階はそれぞれの方がパーソナルスペースを確保

し、思い思いに過ごせる場となるよう配置に工夫を凝らした。

- ・ひらけ！くろゆりプロジェクトを立ち上げ、コストコパン無料配布企画や準備をした。
- ・COVID-19のため、小旅行、メンボラ ToMo の会さんとの活動、買い物やイオンモールウォーキングなど中止となる活動があった。
- ・家族懇談会は COVID-19 のため中止となった。

(令和3年度に向けて)

ひらけ！くろゆりプロジェクトの本格始動の年として、コストコパンの無料配布から始め、より地域にひらかれたくろゆりを目指します。またコロナ禍の中、どんな支援や交流が有効なのか絶えず模索しより多くの方に利用していただけるくろゆりを目指します。

基本方針

体調や生活リズムを整え安定して日々を過ごしながら、希望ある生活を送れるよう支援すると共に、地域共生社会の一端を担う事業所として地域交流・貢献に努めます。

重点実施事項

- ① ホットとできる居場所から表現活動や生産活動まで、支援の幅、特色を活かしながら、生活に潤いを持ち、リカバリーしていける活動を進めます。
- ② この街にあって良かったと言われる地域貢献を担えるよう、地域の課題、ニーズを拾い地域と共に行えるイベントや課題への仕組みづくりを進めます。
- ③ 機関紙くろゆりずむの発行や SNS を活用し、障がい理解や事業の役割存在を知ってもらえるよう効果的に発信します。

(文責：松本)



フードロス活動「パンの無料配布」



町内のごみ拾い

《地域交流推進事業》

(1) 地域交流センター及び地域交流室の活用

青葉会、くろゆり会、メンボラ ToMo の会の活動の拠点として各種行事や会議等で利用されております。その他にも、地域の福祉医療関係者もピア活動の場として使用する等、多目的に利用されておりましたが、令和2年度は COVID-19 の影響で利用件数、参加人数とも昨年度の半分以下の結果となりました。

令和2年度地域交流センター及び地域交流室利用の推移

単位：件

団体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
青葉会と利用者	1	0	4	1	4	1	3	2	3	2	1	1	23
	1	0	7	5	15	4	7	5	9	5	4	1	63
くろゆり会	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1	5
	0	0	0	0	0	6	8	4	0	0	0	2	20
メンボラ ToMo の会	2	1	4	4	1	3	2	1	5	2	2	7	34
	9	1	20	29	9	9	26	7	36	7	7	38	200
その他	1	2	11	1	5	7	5	5	5	4	5	3	54
	5	4	28	3	1	19	12	11	13	16	28	17	167
計	4	3	19	6	10	13	11	9	13	8	8	13	116
	15	5	55	37	35	38	53	27	60	28	39	58	450

上段回数：行事及び会議の回数 下段：行事及び会議の参加者数

(2) その他の地域福祉関係者の活動内容

- 1) これまで SUGAR JAPAN はピアカウンセリングを行うグループとして当法人の地域活動センターしらさぎで2か月毎に集まって、その日のテーマ（生活のことや仕事のこと、病気、薬、老後のこと等）を最初に決めて話し合い、時には討論会になったりして濃密な約2時間を過ごしていたが、残念ながら令和2年度は COVID-19 の為一度の開催も出来なかった。

2) ボランティアに関すること

令和2年度のメンボラ ToMo の会（小松能美メンタルヘルスボランティア友の会から改名）との交流活動はなごみ祭り、バスハイク、お茶会、春の日の食談会等の大きなイベントが COVID-19 で軒並み中止となり、また、学びの会（絵手紙、しゃべろっさ、学ぼうさ）やほっとサロンなどの毎月の訪問活動も行うことができなかった。

—以下、令和2年度メンボラ ToMo の会総会資料からの抜粋—

コロナ禍でのなごみの郷利用者との関わり

月	日	曜	内容
9	16	水	利用者と職員の皆さんを激励するため、会員7人で、焼き饅頭と幸西さんが作った千羽鶴を持参して訪問して利用者代表の方に手渡しする。
10	12	月	味噌開き 職員の方と相談して、会員が4か所の事業所へ味噌を届ける。 2月に仕込んだ味噌を参加した会員12人で、桶から取り出して小袋に詰め、手分けした味噌にお菓子とお茶を添えて各事業所へ届けた。 メンバーさんの変わらない様子にホッとしながら、会えて話が出来て良かった。

上記活動以外に、水腰顧問の呼びかけで会員有志8人が75枚の手作りマスクを作成し、なごみの郷利用者に寄贈する。

第21回なごみ祭・第22回春の日の食談会中止

令和2年度は COVID-19 状況下での開催は中止となりました。



過去開催のなごみ祭、春の日の食談会の様子

Ⅲ令和2年度の決算状況

1 資金収支計算書

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書

（自）令和2年4月1日 （至）令和3年3月31日

（単位：円）

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	就労支援事業収入	13,500,000	14,676,166	△ 1,176,166	
	障害福祉サービス等事業収入	137,382,000	136,913,263	468,737	
	経常経費寄附金収入	323,000	323,000	0	
	受取利息配当金収入	1,000	827	173	
	その他の収入	839,000	766,500	72,500	
	事業活動収入計（1）	152,045,000	152,679,756	△ 634,756	
	支出				
	人件費支出	110,460,000	108,884,833	1,575,167	
	事業費支出	12,058,000	10,929,280	1,128,720	
事務費支出	22,194,000	19,933,350	2,260,650		
就労支援事業支出	13,500,000	13,990,890	△ 490,890		
支払利息支出	14,000	10,324	3,676		
事業活動支出計（2）	158,226,000	153,748,677	4,477,323		
事業活動資金収支差額（3）=（1）-（2）	△ 6,181,000	△ 1,068,921	△ 5,112,079		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	2,242,000	2,242,000	0	
	その他の施設整備等による収入	102,000	102,000	0	
	施設整備等収入計（4）	2,344,000	2,344,000	0	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	3,100,000	3,100,000	0	
固定資産取得支出	4,730,000	4,323,000	407,000		
その他の施設整備等による支出		0	0		
施設整備等支出計（5）	7,830,000	7,423,000	407,000		
施設整備等資金収支差額（6）=（4）-（5）	△ 5,486,000	△ 5,079,000	△ 407,000		
その他の活動による収支	収入				
	その他の活動による収入		0	0	
	その他の活動収入計（7）	0	0	0	
	支出				
	積立資産支出		0	0	
その他の活動による支出	56,000	56,000	0		
その他の活動支出計（8）	56,000	56,000	0		
その他の活動資金収支差額（9）=（7）-（8）	△ 56,000	△ 56,000	0		
予備費支出（10）			0		
当期資金収支差額合計（11）=（3）+（6）+（9）-（10）	△ 11,723,000	△ 6,203,921	△ 5,519,079		
前期末支払資金残高（12）	75,982,446	75,982,446	0		
当期末支払資金残高（11）+（12）	64,259,446	69,778,525	△ 5,519,079		

2 事業活動計算書

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）
法人単位事業活動計算書

（自）令和2年4月1日 （至）令和3年3月31日

（単位：円）

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	14,676,166	14,548,827	127,339
	障害福祉サービス等事業収益	136,913,263	138,910,126	△ 1,996,863
	経常経費寄附金収益	323,000	150,000	173,000
	サービス活動収益計（1）	151,912,429	153,608,953	△ 1,696,524
	費用			
	人件費	109,184,833	96,872,826	12,312,007
	事業費	10,929,280	12,055,146	△ 1,125,866
	事務費	19,933,350	19,366,969	566,381
	就労支援事業費用	14,014,349	14,819,817	△ 805,468
減価償却費	13,765,424	14,009,662	△ 244,238	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 6,220,818	△ 6,000,514	△ 220,304	
サービス活動費用計（2）	161,606,418	151,123,906	10,482,512	
サービス活動増減差額（3）=（1）-（2）	△ 9,693,989	2,485,047	△ 12,179,036	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	827	619	208
	その他のサービス活動外収益	766,500	1,014,272	△ 247,772
	サービス活動外収益計（4）	767,327	1,014,891	△ 247,564
	費用			
支払利息	10,324	37,157	△ 26,833	
サービス活動外費用計（5）	10,324	37,157	△ 26,833	
サービス活動外増減差額（6）=（4）-（5）	757,003	977,734	△ 220,731	
経常増減差額（7）=（3）+（6）	△ 8,936,986	3,462,781	△ 12,399,767	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	2,242,000		2,242,000
	その他の特別収益	0	0	0
	特別収益計（8）	2,242,000	0	2,242,000
	費用			
	固定資産売却損・処分損	242,271	64,343	177,928
国庫補助金等特別積立金積立額	2,242,000		2,242,000	
その他の特別損失	0	0	0	
特別費用計（9）	2,484,271	64,343	2,419,928	
特別増減差額（10）=（8）-（9）	△ 242,271	△ 64,343	△ 177,928	
当期活動増減差額（11）=（7）+（10）	△ 9,179,257	3,398,438	△ 12,577,695	
繰越活動増減額の部	前期繰越活動増減差額（12）	111,591,494	110,219,018	1,372,476
	当期末繰越活動増減差額（13）=（11）+（12）	102,412,237	113,617,456	△ 11,205,219
	基本金取崩額（14）	0	0	0
	その他の積立金取崩額（15）	0	0	0
	その他の積立金積立額（16）	0	2,025,962	△ 2,025,962
次期繰越活動増減差額（17）=（13）+（14）+（15）-（16）	102,412,237	111,591,494	△ 9,179,257	

3 貸借対照表

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

法人単位貸借対照表

令和3年3月31日現在

（単位：円）

	資産の部			負債の部			
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減	
流動資産	72,663,883	81,183,620	△ 8,519,737	流動負債	9,132,099	10,674,456	△ 1,542,357
現金預金	47,075,181	51,432,712	△ 4,357,531	事業未払金	2,211,717	2,243,861	△ 32,144
事業未収金	22,878,028	24,454,445	△ 1,576,417	1年以内返済予定設備資金借入金	3,550,000	3,100,000	450,000
未収補助金	960,263	474,912	485,351	預り金	109,382	2,143,695	△ 2,034,313
商品・製品	70,520	88,015	△ 17,495	職員預り金		225,900	△ 225,900
仕掛品	44,506	53,938	△ 9,432	仮受金			0
原材料	449,233	445,765	3,468	賞与引当金	3,261,000	2,961,000	300,000
立替金	1,564		1,564	その他の流動負債			0
前払金		3,080,000	△ 3,080,000				
前払費用	1,184,588	1,153,833	30,755				
固定資産	80,332,959	90,017,654	△ 9,684,695	固定負債	12,780,000	16,284,000	△ 3,504,000
基本財産	39,015,347	46,990,857	△ 7,975,510	設備資金借入金	12,000,000	15,550,000	△ 3,550,000
土地			0	長期預り金	780,000	734,000	46,000
建物	38,015,347	45,990,857	△ 7,975,510	負債の部合計	21,912,099	26,958,456	△ 5,046,357
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	純資産の部			
その他の固定資産	41,317,612	43,026,797	△ 1,709,185	基本金	11,546,875	11,546,875	0
土地	8,798,375	8,798,375	0	国庫補助金等特別積立金	14,999,669	18,978,487	△ 3,978,818
建物	21,357,155	24,590,969	△ 3,233,814	その他の積立金	2,125,962	2,125,962	0
構築物	1,901,579	1,288,419	613,160	修繕積立金	2,125,962	2,125,962	0
機械及び装置	3,273,896	4,203,627	△ 929,731	次期繰越活動増減差額	102,412,237	111,591,494	△ 9,179,257
車両運搬具	2,889,214	1,105,060	1,784,154	(うち当期活動増減差額)	△ 9,179,257	3,398,438	△ 12,577,695
器具及び備品	806,931	749,885	57,046				
権利	164,500	164,500	0				
(何) 積立資産	2,125,962	2,125,962	0				
その他の固定資産			0	純資産の部合計	131,084,743	144,242,818	△ 13,158,075
資産の部合計	152,996,842	171,201,274	△ 18,204,432	負債及び純資産の部合計	152,996,842	171,201,274	△ 18,204,432

IVその他

1 法人内研修

1) 新人職員を対象に、6月9日、29日に新人研修を行った。

2) 事業所別 DVD 研修

法人では、専門職としての基盤などより深い理解や組織人としての業務遂行スキルなど、そして支援の科学的な裏付けと今後の指導者としてのスキルアップの人材が求められ、日々のOJTやOFFJTと合わせ体系的に育成研修を進めている。今年度はCOVID-19の影響で例年行っている全体研修を一堂に会して行うことは出来なかったが、各事業所でDVD「DVDで学ぶ精神科ソーシャルワーク～精神保健福祉士の歴史と背景、精神障害者の人権擁護のために～」を基に精神保健福祉の歴史を学び、グループで考察することで、これからの福祉の在り方や専門職としてすべきことを確認し合うことが出来た。次年度も必要な研修ニーズを踏まえ体系的に実施し、職員が主体的に考えていく研修を進めていきたい。

(文責：中村)

3) 「虐待防止委員会」取り組みに関すること

職員として権利擁護等の意識を高め、虐待防止につなげていくことを目的に、年3回委員会を開催し取り組みを行った。今年度は、通報の仕組みの確認や、各事業所において虐待防止に向けた早期発見に係る迅速な対応を行うため、現状把握など継続的な話し合いを行うことを確認した。また虐待防止研修では、石川県虐待防止研修に参加した職員の復命研修報告を踏まえ、各事業所で意見交換しレポートを提出する形で研修を行い、虐待を起こさない職員の責務や虐待を起こさないために何が必要なのかの意識を高めた。

(文責：堂前)



2 研修・各種団体会議への出席

月	日	研修・会議名	主催	出席数
7	22	障害者虐待に係る初任者研修	県健康福祉部障害保健福祉課	1
8	24	令和2年度「ステップアップ」衛生管理セミナー	公益社団) 石川県食品衛生協会	1
	27~28	石川県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	県健康福祉部障害保健福祉課	1
9	2、4、7	令和2年度 就労支援基礎研修	高齢・障害・求職者雇用支援機構 石川障害者職業センター	2
	24・25	相談支援従事者初任者研修(リモート)	石川県社会福祉協議会	2
10	22	食品衛生責任者研修会	小松能美食品衛生協会	2
	31	令和2年度医療的ケア児等支援者養成研修 11/3	県社会福祉協議会	2
	16	令和2年度北陸エリア就業支援実践研修	県障害者職業センター	1
	16・25	令和2年度 障害施設リーダー研修	県社会福祉協議会	2
	19・20	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員研修	県社会福祉協議会	1
12	9・10 16・17	令和2年度サービス管理責任者等基礎研修(オンライン)	県社会福祉協議会	2
	8・9	令和2年度県医療的ケア児等コーディネーター養成研修	県社会福祉協議会	1
	24	令和2年度特定給食施設等調理従事者研修会	県南加賀保健福祉センター	1
	26	令和2年度福祉サービスに関する苦情解決研修	県社会福祉協議会	1
1	12~29	令和2年度石川県障害者虐待防止・権利擁護研修	県健康福祉部障害保健福祉課	1
	27	虐待防止マネージャーコース (オンライン)		
	18・19	令和2年度強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)	県社会福祉協議会	1
2	4・25	令和2年度サービス管理責任者等更新研修(オンライン)	県社会福祉協議会	3
	9	「就労パスポート」ワークショップ	石川労働局職業安定部職業対策課	1
	3.4	ひきこもり対策研修(オンライン)	国立国際医療研究センター国府台病院	3
3	4~5	県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	県社会福祉協議会	1
	10	共生型サービス(はじめの一步)(ZOOM)	三菱UFJリサーチ&コンサルティング	1
	10.11 24.25	令和2年度 主任相談支援専門員養成研修	県社会福祉協議会	1
	16	福祉職場の接遇リーダー養成研修(ZOOM)	県社会福祉協議会	2
	20・21	令和2年度障害者施設新任職員研修(ZOOM)	全国障害者総合福祉センター	2
	23	ひきこもり家族教室	石川県南加賀保健所	1

3 関連団体への参加

令和3年4月1日現在

氏名	関係団体	職名
荒田理事長	能美市自立支援協議会 のみ社会福祉法人連絡会 認定 NPO 法人えんがわ	委員 副会長 理事
高田支援部長	小松市社会福祉協議会 のみ社会福祉法人連絡会幹事会及び、研修専門委員会 能美市障害者自立支援協議会事業所連絡会 通所系 第三次能美市地域福祉活動計画評価委員会 能美市手話言語・障がい者等コミュニケーション促進検討委員会	評議員 委員 部会長 委員 委員
瀬戸支援部次長	小松市障害者自立支援協議会 ・精神障がい者等地域生活支援研究会 小松市虐待防止協議会いのちと心の部会 自殺防止対策研修会及び地域連絡会	委員 委員 委員
堂前支援部次長	小松市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・テーマ別検討会 ・相談支援事業所連絡会 相談支援専門員協会 研修企画 日本精神保健福祉士協会石川県支部 相談支援従事者研修初任者研修	委員 リーダー 委員 委員 災害対策委員 企画委員
中村支援部次長	のみ社会福祉法人連絡会 ふれあい弁当にかかる専門委員会	委員
番 千恵子	小松市障害者自立支援協議会 テーマ別検討会	委員
金谷 葉月	南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク推進委員会	委員
西東 健太	南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会	委員
北島 千裕	小松市障害者自立支援協議会 テーマ別検討会	委員
宇野 結貴	小松市障害者自立支援協議会 ・精神障がい者等地域生活支援研究会 ・相談支援事業所連絡会 石川県精神保健福祉士会 教育・研修部	委員 委員 委員
前出 真 南出 真里江	南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会 南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク推進委員会	委員 委員
海老原 綾 土山 信英	能美市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・定例支援会議 ・相談支援事業所連絡会 ・事業所連絡会	委員 委員 委員 委員

4 令和2年度公立小松大学実習概要

開校3年目を迎えた公立小松大学の精神保健看護実習の受け入れを今年度も行いました。「看護ケアを提供する対象者に対して、人権や権利を尊重した倫理的な態度で、また、病気や障がいによる対象者への否定的なイメージをもたずに、対象者を全人間的に理解するために必要なコミュニケーション能力を高める」ことを目的に学生50人が実習を行いました。今年度は、COVID-19の影響の為、オンライン実習で学びを深めました。6人1Gとなった学生が2日間、3週に渡り、就労支援センターつばさ、能美地域活動センターはまかぜ、地域活動センターくろゆりの通所事業所を利用している利用者とグループホームなごみに住んでいる利用者計9人と画面を通してコミュニケーションを取り、地域住民として生活する精神に障がいのある方への理解を深めることを目標に学びを深めました。オンライン実習は初の試みでしたが、オンライン実習だったからこそ、学生と関わることが出来た、話をすることが出来たという利用者もおり、今回の実習は新たな発見となり有意義な実習が出来たと思います。

来年は、対面での実習ができることを願い、精神に障がいのある方への理解を深めて頂けるよう創意工夫を積み重ねていきたいと思っています。

(文責：瀬戸)



公立小松大学実習の様子

5 地域貢献の一環

令和2年7月能美市に、当法人も含む市内9法人の参画により「のみ社会福祉法人連絡会」が設立され、複数法人連携事業により地域のセーフティネット構築として、高齢者等への配食サービスや福祉人材育成研修、フードドライブ協力を始めた。

また障がい者理解への啓発活動として、能美市地域住民に対して、障がいを抱える当事者の思いや生活のしづらさなど体験談を話し、障がい理解の講座を実施した。その他、近隣町内清掃活動等による、環境美化活動や地域交流は実施してきたが、地域行事への参加や、福祉人材育成、教育目的の実習受け入れは、今年度は新型コロナウイルス感染症のため行うことが出来なかった。

(文責：高田)

6 なごみの郷苦情解決第三者委員

令和2年度活動報告

単位：人

月	訪問先	訪問内容	相談形式と人数	苦情BOX 電話等	計	
4	訪問なし	COVID-19の為				
5	訪問なし	COVID-19の為				
6	くろゆり	通常訪問	グループ相談	8	8	
7	はまかぜ	通常訪問	グループ相談 個別相談	7	7	
8	なごみ	通常訪問	個別相談	3	苦情㊦1	4
9	山口分場	新たに通常訪問	グループ相談	4	苦情㊦3	7
10	くろゆり	通常訪問	グループ相談	5		5
11	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	6		6
12	なごみ	通常訪問	個別相談	7		7
1	訪問なし	COVID-19の為				
2	訪問なし	COVID-19の為				
3	山口分場	通常訪問	グループ相談	4	苦情㊦1	5
相談人数総計 49 人（内苦情㊦5 人）						

■今年度の活動と次年度の展望

- ・平成17年（2005年）以来、今年度で16年目の活動となった。
- ・苦情解決第三者委員である井村千里、北岡和代の2人で活動を行った。
- ・今年度より山口分場がなごみ、はまかぜ、くろゆりに加わり4施設への定期訪問活動を行った。
- ・山口分場は希望者のみが集まって訪問に応じる形式とした。はまかぜとくろゆりは、訪問がプログラムに組み込まれており、なごみはメンバーによる任意に応じる形式とした。
- ・COVID-19による影響を受けて、訪問をキャンセルすることがあったが、状況を鑑みて再開した。
- ・メンバーがCOVID-19による深刻な影響を受けたのかどうかは訪問時において把握できなかった。
- ・次年度も、施設側の委嘱に応じて、同様の活動を実践し、施設が提供するサービスの向上・充実に貢献していく。

（文責：苦情解決第三者委員 北岡）

Memo

令和2年度事業実績及び

令和3年度に向けて

発行 社会福祉法人なごみの郷
理事長 荒田 稔

発行日 令和3年9月30日

編集 社会福祉法人なごみの郷
〒923-0851

石川県小松市北浅井町123番地
TEL(0761)23-7232 FAX(0761)23-7284

印刷 能美地域活動センター
はまかぜ
